

河北大学 2007 年硕士研究生入学考试试卷

卷别: A

学科、专业	考试科目代码	考试科目名称	备注
日语语言文学		日语语言技能综合	

特别声明: 答案一律答在答题纸上, 答在本试卷纸上无效。

一、下線部のひらがなを漢字に直してください。(1 × 10)

- ①世間一般にしゅうち徹底させる。
- ②両者をたいしょうして考える。
- ③やせいのイチゴを摘みにいく。
- ④古今東西の名画をかんしょうする。
- ⑤犯行の動機をきゅうめいする。
- ⑥新緑の美しいじきとなった。
- ⑦真理のついきゅうに生涯をかける。
- ⑧規定の課程をしゅうりょうする。
- ⑨はんざつな手続きを必要とする。
- ⑩言論の自由をほしょうする。

二、下線の漢字の正しい読みを ABC から選んで、記号で答えなさい。(1 × 10)

- | | | | |
|---------------------|---------|---------|---------|
| ①操をまもる。 | A. ひさお | B. あやつ | C. みさお |
| ②腕を <u>競</u> う。 | A. きそ | B. きょう | C. けい |
| ③業を煮やす。 | A. ごう | B. ぎょう | C. わざ |
| ④最寄りの駅から歩く。 | A. さよ | B. もよ | C. さいよ |
| ⑤雪がちらちら舞っている | A. ま | B. まい | C. ふ |
| ⑥埒があかない。 | A. らつ | B. らち | C. らき |
| ⑦失敗を <u>嘲</u> る。 | A. ちょう | B. あざけ | C. あお |
| ⑧経済の <u>破綻</u> を招く。 | A. はてい | B. はたん | C. はてん |
| ⑨ <u>硯</u> に水を注ぐ。 | A. すずり | B. けん | C. みみず |
| ⑩高嶺の花である。 | A. たかれい | B. たかみね | C. こうれい |

三、下線の外来語を中国語に訳しなさい。(1 × 10)

- ①けたたましく鳴らされるクラクションで目が覚めた。
- ②あまりにも突然でショックを受けた。
- ③あの人はいつもストレートにものを言う。
- ④体にいろいろなアクセサリをつけている。
- ⑤今週のベストセラーは何ですか。
- ⑥クイズ番組が好きだ。
- ⑦あの人はクールな人です。
- ⑧二人は五年の付き合いで、今年ついにゴールインした。

⑨ヒット曲を流す。

⑩この食堂の料理はボリュームがある。

四. 次の () にことばをいれてことわざを完成しなさい。(2×10)

- ① 石の上にも ()。
- ② 弘法も () の誤り
- ③ 雲泥の ()。
- ④ 雨降って () 固まる。
- ⑤ () も鳴かずば撃たれまい。
- ⑥ 光陰は () の如く。
- ⑦ () の友。
- ⑧ 二階から ()。
- ⑨ () に小判。
- ⑩ 焼け石の ()。

五. () にどんな言葉を入れたらよいか、それぞれ ABCD の中からもっとも適当なものを選び、記号で答えなさい。(1×20)

- ①富士山の山頂を () 三時間ばかり歩いた。
A. 指して B. 目指して C. 向かって D. 向けて
- ②誰でも自分 () のやり方があるものだ。
A. しか B. なり C. だけ D. ばかり
- ③先生はいつも修学旅行のとき、病人が出ないように気を () いる。
A. いれて B. 取られて C. 入って D. 配って
- ④大通りで遊んでいる子どもを見ると () します。
A. はらはら B. すくすく C. きりきる D. こわごわ
- ⑤今日は秘書に急に ()、仕事がはかどりません。
A. 休まれて B. 休んで C. 休んでもらって D. 休ませてもらって
- ⑥世の中にこんなばかげたことがあってたまる ()
A. もの B. ものか C. こと D. ことか
- ⑦今日は息子の入学祝いですから、好きな () 飲んでください。
A. ほど B. だけ C. くらい D. まで
- ⑧私の言うことにも少しぐらい () ください。
A. 耳を傾けて B. 耳を挟んで C. 耳を借りて D. 耳を取って
- ⑨夜空に雲もなく、星が () 輝いていた。
A. ぴかぴかと B. ひらひらと C. さんさんと D. きらきらと
- ⑩退屈した生活 () 飽きて、刺激を求めている人が増える。
A. へ B. で C. に D. も
- ⑪お見せする () 立派なものではない。
A. ばかり B. だけ C. ほど D. ぐらい
- ⑫求法の熱 () 燃える僧侶たちが中国へ渡った。
A. が B. を C. も D. に

⑤お忙しいところ()お邪魔して、どうもすみません。

Aで Bに Cを Dが

⑥あの人は、なかなか人間が()。

Aできている B削っている Cできあがっている Dつくられている

⑦彼女はその成績を聞いて、飛び上がらん()喜んだった。

Aだけに Bだけで Cばかりで Dばかりに

⑧午後、ちよつとお宅の方へ()したいのですが、よろしいですか。

Aお邪魔 Bご迷惑 Cお世話 Dお手数

⑨二階へ()と、遠くの山が見える。

Aあがる Bあげる Cゆく Dのぼる

⑩()問題が問題だから、そう簡単に解決できそうにない。

Aなんとも Bなにしろ Cなにやら Dなにとぞ

⑪友達は遠くから私に懐かし()手を振った。

Aげに Bきに Cっぽく Dみに

⑫「先生、母が必ず()と言っています。」

A行きたい Bお伺いになりたい C参りたい Dお伺いしたい

六、次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。(5×4)

わが国の近代小説は無論明治以後に成立したのであるが、この成立のためには文章の上においても互々ならぬ苦闘が続けられ、裝飾的な美文体、文語体から、尾崎紅葉、山田美妙、[A]等の努力によって、言文一致体が創始され、ここに始めてその成立の①タゾシを捉えたのである。言文一致体というのは、「文章の口語化」即ち「しゃべるように書く」ことであり、この努力は自然主義時代を経て、志賀直哉氏の文学において完成したといえるのである。佐藤春夫氏の説によれば、僕らの散文は口語文であるから、しゃべるように書けということである。これは或いは佐藤氏自身は不用意のうちに言ったことかもしれない。しかしこの言葉はある問題を——『文章の口語化』という問題を含んでいる。近代の散文はおそらくはくしゃべるようにの道を踏んできたのであろう。僕はその著しい例に近くは、武者小路実篤、宇野浩二、佐藤春夫の諸氏の散文を算えたいものである。志賀直哉氏の散文もまたこの例に漏れない。しかし僕らの『しゃべり方』が、②ユウモウジンの『しゃべり方』はしばらく問わず、異国たる中国人の『しゃべり方』よりも音楽的でないことも事実である。僕は『しゃべるように書きたい』願ひも無論持っていないものではない。が、同時にまた一面には『書くようにしゃべりたい』とも思うものである。僕らの知る限りでは夏目先生はどうかすると実に『書くようにしゃべる』作家だった。『(I)』作家は前にも言ったようにいない訳ではない。が、『(II)』作家はいつこの東海の③コトウに現れるであろう。この芥川の文章で、しゃべることよりも書くということに④ジュウテンがあり、ここに新しい小説文章の創造が⑤タイドウしていたが、これは新感覚はの発生とともに話すように書く文章から「書くように書く」文章へと激しい苦闘が続けられるに至ったのである。横光利一氏は「言葉という言葉がある言葉とは外面である。より多く内面を響かせる外面はより多く光った言葉である。この故に私は言葉を愛する。より多く光った外面を。そうして光つ

た言葉をわれわれは象徴と呼ぶではないか。この故に私は象徴を愛する。象徴とは内面を光らせる外面である。この故に私はより多く光った象徴を愛する。より多く光った象徴を計画しているものを私は新感覚はと呼んできた」といっていたが、昭和四年の「文芸時評」では明らかに「[Ⅲ]」ことを主張するに至った。

問1 上の文章において、芥川の記事はどこから始まるか。始まる箇所の最初の五文字を記せ。

問2 上の文章中、空欄Aの部分に、言文一致のため努力した、最も妥当な作家の姓名を漢字で記せ。

問3 上の文章中、空欄Ⅰ～Ⅲの部分に、文章中より、適切な語句を見出し、意の通るようにせよ。

問4 下の項目中、「新感覚派」と関連のあるものを一つ選び、番号を記せ。

1. 種まく人 2. 文芸戦線 3. 文芸時代 4. 川端康成

問5 下の文章中、カタカナの部分、①～⑤を漢字に直せ。

七. 次の中国語を日本語に訳しなさい（括弧の中の言葉を使うこと）。（4×10）

1) 一个人得干三个人的活，也没有人替换，整个上午连喝水的时间都没有。

（…ひまもない）

2) 他那带有哲理的话好难懂。（…めく）

3) 眼看就要下雨，你还是带着雨伞去好。（…いまにも…（し） そうだ）

4) 他倒下之后再也没能站起来。（…きり）

5) 连自己也不懂的词语，还是不用保险。（無難）

6) 就能力来看，他也及不上小徐。（限り）

7) 两人都等着眼睛怒视着对方，差点儿就要打了起来。（もうすこしで…）

8) 我煮的咖啡味道和香味也许并不比那些廉价咖啡馆的差。（引けを取る）

9) 也许你们在日本能见面也未可知。（ひょっとすると…）

10) 他是个直来直去得人，所以会有得罪人的地方，请别介意。（ざっくばらん）

八. 次の日本語を中国語に訳しなさい。（20）

濁流は、メロスの叫びをせせら笑うごとく、ますます激しく躍り狂う。波は波を呑み、捲き、煽り立て、そうして時は、刻一刻と消えていく。今はメロスも覚悟した。泳ぎきるよりほかはない。ああ、神々も照覧あれ！濁流にも負けぬ愛とまことの偉大な力を、今こそ発揮してみせる。メロスは、ざんぶと流れに飛び込み、百匹の大蛇のようにのたうち荒れ狂う波を相手に、必死の闘争を開始した。満身の力を腕に込めて、押し寄せ渦巻き引きずる流れを、なんのこれしきと掻き分け掻き分け、目蔵めつぼう獅子奮迅の人の子の姿には、神も哀れと思ったか、ついに憐憫をたれてくれた。押し流されつつも、見事、対岸の樹木の幹に、すがりつくことができたのである。ありがたい、メロスは馬のように大きな胴震いをひとつして、すぐにまた先を急いだ。一刻といえども、無駄にはできない。陽はすでに西に傾きかけている。ぜいぜい荒い呼吸をしながら峠を上り、上りきって、ほっとしたとき、突然、目の前に一隊の山賊が躍り出た。